



*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。長田中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

台風影響長期化・・・

～北陸は台風最接近より前の31日を中心に大雨か！？～

中学校での天気学習は、2年生で行います。「日本の天気」の単元では、台風の学習も行います。3年生のみなさんは既に学習済みですね。

現在、台風10号は九州に上陸し、ゆっくりとしたスピードで東寄りに進路を変えて進んでいます。明日31日に四国付近を進み、1日に紀伊半島、2日に本州中部とかなり動きが遅い予想です。

この影響で、北陸地方には台風周辺の暖かく湿った空気が流れ込み続け、今後、警報級の大雨のおそれがあります。また、台風の動きが遅いため、雨雲が長時間にわたってかかり、土砂災害や低い土地の浸水、河川や用水路の増水や氾濫の危険度が高まるおそれがあります。(右図上)

台風10号は、予報が出るたびに動きが遅くなる傾向となっており、北陸への最接近の時期も遅くなる方向となっています。この理由として、

①上空の偏西風が大陸(台風から遠い)にある

台風は日本付近に近づくと、上空の偏西風に乗って速度を速めることが多くなっていますが、今回は上空の偏西風は大陸方面にあり、台風から離れています。このため、台風の流す風が弱いので、台風が上陸しても速度が上がらず、日本付近をゆっくりと進むようになります。

②太平洋高気圧のブロック

台風は太平洋高気圧の縁に沿って動きます。31日9時の太平洋高気圧の予想(右図中)ですが、台風の周りをほとんど囲っている状態で、東へも西へも行けない状態となっています。

台風が予報円の中心を通った場合、中部山岳を縦断するコースとなります。ただ、台風は基本的に地形の影響を強く受ける特性があります。特に高い山は避けて通る傾向があります(右図下)。台風が中部山岳付近を進もうとした場合、中部山岳の手前で一時的に動きが遅くなったり、中部山岳を迂回して通ることがあります。現段階で、台風の中心がどちらを進むか、予測が難しくなっています。また、台風の中心が南と北に分裂することもあります。北陸目線では、台風の中心が中部山岳の北側を迂回した場合に影響が大きくなりそうです。

【tenki.jp ネット記事参照】

生徒のみなさん、台風の予報円は依然として大きく、台風の進路や接近時刻はまだ不確実で、時々刻々と変わります。予報が大きく変わる可能性もあるので、常に最新の台風情報を確認し、安全確保に努めてください。急な日課変更がある場合は、学校HP、配信メールでお知らせします。

北陸 警報級の可能性(29日17時予想)

	29日(木)	30日(金)	31日(土)	1日(日)	2日(月)	3日(火)
新潟			[中]	[中]	[中]	
富山			[中]	[中]	[中]	
石川			[中]	[中]	[中]	
福井		[中]	[中]	[中]	[中]	

※福井・金沢・富山・新潟の各地方気象台の発表に基づいて作成。 tenki.jp

